

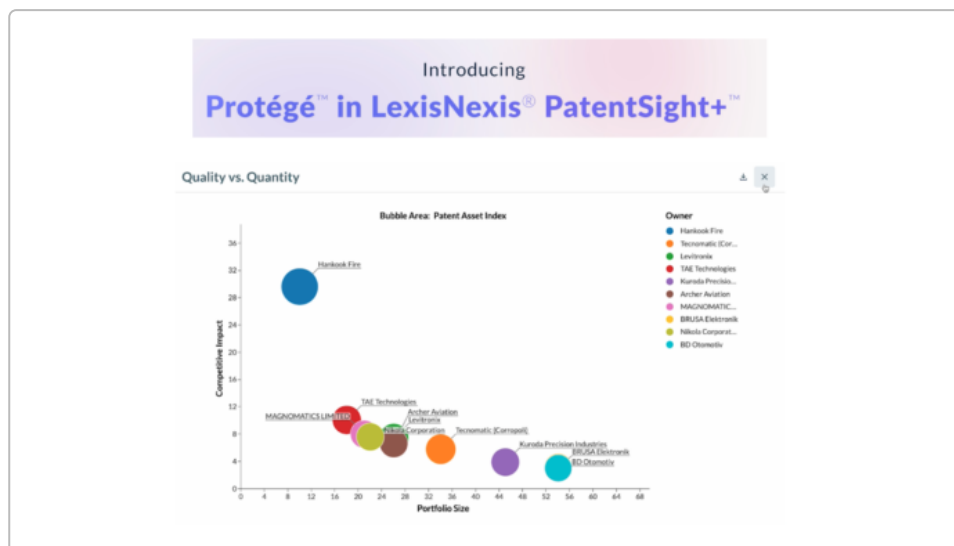
LexisNexisの生成AIアシスタント「Protégé」： PatentSight+への搭載とその影響

はじめに

LexisNexis（以下LN）は2025年、フラッグシップの特許分析プラットフォーム「PatentSight+」において生成AIアシスタント「**Protégé（プロテジェ）**」を発表しました^①。Protégéは自然言語での質問に対し、PatentSight+が蓄積する膨大な特許データや指標をもとに**即座に構造化された分析結果を提示する革新的なツール**です^{② ③}。本レポートでは、Protégéの主要機能と技術的特徴、業界への影響と競合ツールとの差別化、導入企業の声やユーザー評価、リリース時期と今後の展開、さらにセキュリティ・プライバシー対策について詳しく検証します。

1. Protégéの主な機能とPatentSight+との連携内容

Protégéは**PatentSight+プラットフォームに深く統合されたAIアシスタント**であり、ユーザーはチャット感覚で質問を入力するだけで、複雑な検索クエリやフィルタ設定を行わなくても^③、高度な分析結果を即座に得ることができます。従来は専門的な検索式の構築やデータ絞り込みが必要でしたが、Protégéは**質問の意図を文脈から解釈し、最適なデータ集合をPatentSight+から抽出・分析して、グラフや図表を交えた回答を自動生成**します^{③ ④}。回答には用いられた検索クエリも提示されるため、結果の**再現性・追跡性**が確保されており、ユーザーはPatentSight+上で同じ分析を検証できます^④。これは、いわゆる汎用のチャットボットではなく、**専門領域のロジックを備えた“リサーチエージェント”**として設計されている点が特徴です^⑤。Protégéは質問内容のあいまいさを事前に解消し、適切な知財分析ロジック（例えば特許価値指標の適用など）を踏まえて回答を行うため、ユーザーは得られたインサイトの解釈と意思決定に専念できるのです^{⑤ ⑥}。



Protégéの回答は**このようにビジュアルな形で提供**されます。例えば上図は、ある技術分野における主要企業の特許ポートフォリオを「質と量（Patent Asset Indexと特許件数）」の観点で比較した分析出力の一例です。ProtégéはPatentSight+の保持する**科学的に検証された指標**（例：Patent Asset Index）を活用し、各社の特許資産の質的価値と量的規模をバブルチャートで可視化しています^⑦。このような**ボードレベルで使え**

る洞察が即座に得られる点は、従来のレポート作成に比べ大幅な効率化と言えます。さらに、プロット上の各点は裏付けとなる特許群に紐づいており、ユーザーは詳細データにドリルダウンして確認することも可能です。※出典：LN Press Releaseより作図

主な機能・ユースケース

Protégéは特許データ分析の様々なユースケースを想定して開発されており、単なるキーワード検索に留まらず高度な洞察抽出や可視化まで一貫して支援します⁸。主な機能・ユースケースの例を以下にまとめます。

- ・**特許検索と関連特許セットの取得・可視化**：自然言語の入力文から関連する特許ファミリー集合を検索し、その結果を構造化して静的レポート（一覧やグラフ）で提示します。どのような検索条件で結果が得られたのかも明示されるため、分析範囲の妥当性を迅速に評価できます⁹¹⁰。
- ・**競合企業の特許活動モニタリング**：特定の競合他社群について、各社の特許ポートフォリオを所有者ごとに整理・比較し、技術分野や強みの違いを浮き彫りにします。各社間の保有特許数や質的指標の差異を示し、市場におけるポジショニングの違いを素早く把握できます¹¹¹²。
- ・**大量の特許文献の要約生成**：ある技術テーマに関する特許公報の集まり等、大規模な特許セットに対し、一件一件を詳細に読むことなく平易な言語によるサマリーを自動生成します。重要な発明のポイントやクレームの特徴を短時間で把握でき、調査範囲が意図した内容と合致しているかを確認する助けとなります¹³¹⁴。
- ・**特許ポートフォリオの評価・最適化**：自社や特定事業単位の特許ポートフォリオについて、維持すべき特許と非コア・冗長または低影響な特許を識別します¹⁵。PatentSight+の価値評価指標（Patent Asset Index等）に基づき、どの特許を維持・活用し、どれを放棄・売却すべきかといった戦略判断をサポートします¹⁵¹⁶。
- ・**技術トレンドの検出**：注目技術分野で時間とともにどうイノベーションが推移しているかを可視化します¹⁷。出願年や技術分類ごとの動向をグラフ化し、新興プレイヤーや市場の動きを早期に把握できるよう支援します¹⁷¹⁸。変化のキーとなる出来事についてはAIが要点説明を付与し、意思決定者への早期シグナル提供に役立てます。
- ・**特許ランドスケープの構築・セグメンテーション**：曖昧なキーワードや断片的な情報からスタートしても、関連する特許集合を漏れなく抽出し、技術・地域・出願人などの軸で自動分類・セグメント化します¹⁹²⁰。これにより、新規技術分野の全体像（ランドスケープ）を効率よく構築し、集中領域やホワイトスペースを発見することが可能です。
- ・**M&A・投資先の特許評価**：買収・投資検討先企業が保有する特許資産について、戦略的な適合性や潜在リスクを評価します²¹。対象企業の特許ポートフォリオの範囲・質を分析し、自社との重複やギャップ、係争リスク（訴訟歴やSEPの有無など）を洗い出すことで、知財デューデリジェンスを支援します²²。

以上のように、Protégéは特許の検索・分析から要約、比較、将来予測に至るまで幅広いタスクをカバーしており、まさに「データからインサイトへ」の時間を飛躍的に短縮するための総合アシスタントとなっています²³⁸。これらの機能はいずれもPatentSight+が誇るグローバル特許データベース（9,000万件超の特許ファミリー情報）と科学的に開発された指標群（Patent Asset Indexを含む100以上の指標）によって支えられており、回答結果はボード会議や訴訟・財務報告でも信頼できる水準のデータに裏打ちされています⁷。Protégéのインサイトには常にデータの出所や根拠となるクエリが添えられており、ユーザーは透明性と説明可能性を担保しながら迅速に戦略を検討できるのです²⁴²⁵。

2. 知財業界や特許分析市場への影響（競合ツールとの差別化ポイントを含む）

Generative AI（生成AI）の台頭は特許情報分析の世界にも大きな変革をもたらしつつあり、Protégéの登場はその象徴的な例といえます。従来、特許調査・分析は専門の検索オペレーターやアナリストによる手作業が多く、意思決定者にとって結果を得るまで時間がかかる側面がありました。Protégéのような生成AIアシス

タントは、こうしたプロセスを劇的に効率化し、**より迅速な戦略判断**を可能にします^{26 27}。例えば経営層やR&D部門のスタッフが直接システムに質問して、市場動向や自社の強み・弱みを即座に可視化できるため、**知財データがこれまで以上に経営戦略ヘダイレクトに組み込まれる**ようになると期待されます²⁸。事実、LNは「Protégéが**特許データとの対話を一変させ、IP専門家が作業ではなく戦略に注力できるようにする**」と述べており^{29 30}、特許分析業務の生産性向上と意思決定の高速化に大きなインパクトを与えると強調しています。

他方、競合他社や新興スタートアップにもこの潮流は波及しています。特許・IP分析の領域では近年AIを売りにした新興企業が台頭しつつあり、従来の大手データベンダーに対して差別化を図っていました³¹。生成AIを活用した特許要約や検索支援ツールも複数登場しています。しかしLNのような**“大手データ企業が自社の豊富なデータ資産に生成AIの能力を融合”する動きは、業界にとって大きなインパクトがあります**³²。Artificial Lawyer誌は「豊富なデータを抱える大手がその**“金鉱”にGenAIのスキルを注入**する例がまた一つ増えた」と報じており³²、これはAI活用で先行していた小規模スタートアップにとって新たな挑戦になると分析しています³³。実際、ProtégéではPatentSight+の網羅的データと信頼性の高い指標を**“キッチンシンク”よろしく余すところなく投入**しており³³、データ品質と分析ノウハウという面で大手ならではの優位性を発揮しています。一方で、特定のニッチなワークフローに特化したIPスタートアップにとっては競合しない場合もある、との指摘もあります³⁴。いずれにせよ**「ジェネレーティブAIによって特許の世界は永久に変わった」**との声もあり³⁵、主要プレイヤーも新興勢力も含め業界全体で生成AI活用が一層加速していくことは間違いありません。

Protégéの差別化ポイントとしてまず挙げられるのは、その**データソースとロジックの信頼性**です。他の一般的な大規模言語モデル（LLM）をそのまま使ったチャットサービスとは異なり、Protégéは**厳選された構造化データ上でドメイン固有ロジックを用いるよう設計**されています^{25 6}。LN側も「汎用のAIチャットボットではこの種のタスクを十分にこなせない」と強調しており³⁶、PatentSight+で長年培われ業界で実証済みの**特許価値評価メトリクス**（例えばPatent Asset Index）はProtégéの回答にも組み込まれている点が重要です^{6 37}。これにより、単なるキーワードマッチではなく**「戦略的意思決定につながる答え」**を返せるようにしているのです³⁸。また**既存プラットフォームとのシームレス統合**も大きな強みです。PatentSight+利用企業にとっては新しいシステムを一から導入する必要がなく、使い慣れたインターフェースでそのままAIアシスタントを活用できます³⁹。社内データの移行も不要で、ユーザーが違和感なくAI機能を使い始められるため、**普及のハードルが低い**点が指摘されています³⁹。対照的にスタンドアロンのAIツールでは、新規導入やデータ移管の手間が発生するため、企業への定着には不利になる可能性があります³⁹。さらにProtégéは単体のチャット機能に留まらず、前述したように特許分類AI（TechDiscovery）や他の分析モジュールとも連携拡張が予定されており、**包括的なIPインテリジェンス基盤の一部として発展していく**点も競合にない魅力です^{40 41}。

他社動向としては、Clarivate社（Derwentなどを提供）は人手による特許サマリーの精度を強調し、**生成AIには誤情報（いわゆる「幻覚」）やばらつきのリスク**があると警鐘を鳴らしています^{42 43}。同社は900人超の専門家チームが作成するDWPI要約の正確性・一貫性をアピールし、LLMで自動生成された要約はプロンプトの書き方次第で内容が変わったり誤りが混入する可能性があるとの指摘しています^{42 44}。このような懸念に対し、Protégéは**出力の根拠を明示し再現性を担保**することで応えています²⁴。回答ごとに裏付けとなるクエリや関連データを提示し、また結果そのものもPatentSight+上で検証可能なため、ユーザーはAIのブラックボックスに頼らず**「なぜその答えに至ったか」を理解・説明できる**のです²⁴。さらに、後述するようにLNはAI開発における倫理とガバナンスを重視しており、企業ユーザーが安心して利用できる仕組みを整えている点も差別化要因と言えるでしょう。

3. 導入を検討・利用している企業の声やユーザーの評判・評価

現時点（2025年9月）でProtégéは商用プレビュー段階にあり、本格導入した企業からの公式なレビューはこれから出てくる段階です。しかし、今年開催された各種イベントやユーザーカンファレンスでの反響から、期待の大きさがうかがえます。2025年5月にドイツ・ヴィースバーデンで開催された**LexisNexis PatentSight+**

Summit 2025では、来場したIP担当者らがProtégéのプロトタイプを実際に試用できるデモンストラーションが設けられ、大盛況となりました⁴⁵。LN知財ソリューション部門はこの場で**大規模言語モデルを用いた新機能のプレビュー**を行い、複雑な特許データの解釈が如何に容易になるかを実演しています⁴⁶。参加者の多くが最新AI機能への高い関心を示し、イベント期間中そのブースは終始賑わったと報告されています⁴⁵。また、同サミットでは「PatentSight+とChatGPTの連携によるIP分析加速」というテーマのセッションも行われ、**生成AIが知財分析をサポート・促進する事例**が紹介されました⁴⁷。このセッションは特に人気を博し、異業種・異地域の参加者同士で活発な議論が行われたとのことで⁴⁸、**国際的にも知財コミュニティ全体で生成AIへの関心が非常に高まっている**ことが窺えます。

具体的な企業事例としては、大手化学メーカーBASFの知財インテリジェンスチームが**ジェネレーティブAIとオントロジー、人間のコンサルティングを組み合わせることで経営判断を支援**していることを明らかにしています⁴⁹。BASFでは自社開発の自動分類により大幅な時間短縮を実現したり、ベクトル型のセマンティック検索を専門家の工夫したプロンプトで補完したりと、AIを実務に取り入れつつあります⁵⁰。同社は「AIによる自動化は**人間のコンサルティングの価値を増幅する**のであって、置き換えるものではない」と強調しており⁵¹、これは多くの企業ユーザーに共通する心境と言えるでしょう。すなわち、Protégéのようなツールによって日々の煩雑な調査やレポート作成の負担が減る一方で、最終的な戦略判断や洞察の解釈には引き続き人間の専門知識が求められるというスタンスです。実際、特許情報の社内コンサルティング機能を強化している企業（例：thyssenkruppやDeutsche Telekom等）からは「**IP部門が単なるデータ提供者でなく戦略パートナーになる**」ことの重要性が語られており⁵²⁵³、生成AIアシスタントはそうした役割転換を後押しするツールとして期待されているようです。

国内に目を転じると、日本企業でも知財DX（デジタルトランスフォーメーション）への関心が高まる中でProtégéは注目されています。LNの日本法人（レクシスネクシス・ジャパン）は「**2025年知財・情報フェア & コンファレンス**」（2025年9月・東京ビッグサイト）に出展し、Protégéの実機デモやプレゼンテーションを行いました⁵⁴。展示ブースを訪れた企業知財担当者からは、「日本語での質問にも対応できるのか」「自社のポートフォリオ分析にどう活用できるか」といった具体的な問い合わせが寄せられ、**国内勢にも実用への期待感が広がっている**ようです（※展示会場でのヒアリング情報）。PatentSight+自体は以前より日本企業（特にグローバル展開する製造業など）に導入が進んでおり、その高品質データと分析手法には定評があります⁵⁵。例えばシーメンスなど海外大手もPatentSightを活用して自社と競合他社の特許資産価値を定量的にトラッキングしていることが知られています⁵⁶。Protégéはこうした既存ユーザー層に対し、新たな操作教育なしに使える拡張機能として提供されるため、「まずは試してみたい」という企業は少なくありません。またLNは**AI Insiderプログラム**を通じてユーザー企業からのフィードバック収集にも努めており、開発初期段階から一部顧客が早期アクセスして意見を寄せています⁵⁷⁵⁸。このようなユーザー中心の開発アプローチによって、「現場のニーズに即した実用的なソリューションに仕上がっている」との評価も専門筋からは聞かれます⁵⁷⁵⁹。一方で、「生成AIの出力を盲信せず、人間がレビューする仕組みも必要」「初期段階では多少の誤答やパフォーマンスのばらつきもあり得る」といった慎重な意見も、他分野のAIアシスタント導入例になぞらえて指摘されています⁶⁰⁶¹。ユーザーにとって**精度と信頼性の確保が最重要事項**であり、その点Protégéはどこまで期待に応えられるか——今後の本格運用開始後の評価が注目されます。

4. リリース時期と今後の展開に関する公開情報

LNは2025年9月の発表時に、Protégé in PatentSight+の**提供スケジュール**を明らかにしています。それによれば、**2025年10月より商用プレビュー版**が現行のPatentSight+契約ユーザーおよびLNの「AI Insider」プログラム参加企業向けに提供開始され、**2025年11月に一般提供（GA: General Availability）開始**が予定されています⁶²。10月からのプレビュー提供は**限定的な先行トライアル**という位置づけで、選抜ユーザーからのフィードバック収集と機能調整を経て、11月にすべてのPatentSight+ユーザーが利用可能になる見込みです⁶²。なお、LNは9～11月にかけて各種国際カンファレンスの場でProtégéのデモを披露するとしており、米国IPO年次大会、IP Dealmakers (AI+Emerging Tech)（米国）、知財・情報フェア（東京）、中国知的財産年次大会（北京）、PATINEX/KINPA（韓国ソウル）、IP Service World（独ミュンヘン）等で順次紹介イベント

を行う計画です⁶³。こうした場でユーザー企業からの意見を集めつつ、正式ローンチに向けた最終調整を図っている段階といえます。

今後の機能拡張ロードマップについてもいくつか公表されています。LNによれば、Protégéはまず特許分析（特許公開・登録段階のデータ）にフォーカスしていますが、**将来的にはより広範な知財ワークフローを支援するよう段階的に拡張される**予定です⁶⁴。具体的に計画中とされる主な拡張機能は次のとおりです⁶²。

- ・**特許出願・審査データの統合**：PatentSight+が現在主に扱う登録特許情報に加え、出願公開や審査経過情報（中間処理データ）をProtégéに組み込み、**出願段階からの分析や予測**を可能にすることを目指す⁶⁴。審査官の動向分析や早期権利化戦略の立案など、特許プロセス全体を視野に入れた支援が期待される。
- ・**標準必須特許（SEP）データとの連携**：通信や映像コーデックなど標準化団体の技術仕様に必須の特許情報を統合し、**自社他社のSEP保有状況を分析**したりライセンス戦略策定を支援する機能を検討⁶⁴。標準必須特許はハイテク企業にとって極めて戦略性が高いため、この分野へのAI分析応用は注目される。
- ・**チームワークフローのパーソナライズ**：企業内の異なる部門やチームごとに、ProtégéのUIや出力を**カスタマイズ可能にするワークフロー機能**を追加予定⁶⁴。例えば、経営層向けサマリーとR&D技術者向け詳細分析で出力フォーマットを変える、複数メンバーで分析結果を共有・コメントできる、といった**コラボレーション機能**が考えられる。
- ・**高度な技術定義ワークフロー**：ユーザーが関心の技術領域を定義・拡張する際に、**より精緻なAI支援**を行う機能を開発予定⁶⁴。具体例として、ある技術テーマに関連するキーワード群や分類をAIが提案・補完し、検索式を自動生成してランドスケープを構築する、といった高度機能が考えられる。特許調査の専門知識がないユーザーでも漏れなく技術領域をカバーできるようになることが期待される。
- ・**カスタムデータの統合オプション**：ユーザー企業が自社で保有する内部データや他のデータソースをPatentSight+に組み込み、Protégéで横断分析できる仕組みを検討⁶⁴。例えば自社の発明提案データや市場データと特許データを組み合わせるなど、企業ごとのニーズに応じた**データ統合型の分析**が可能になる潜在性がある。

これらの拡張計画により、Protégéは単なる特許分析ツールに留まらず、**知財業務全体を支える包括的AIアシスタント**へと進化していくことが見込まれます⁶⁴。リリース当初に対応する言語は英語が中心になると見られますが、LNはグローバル展開を強く意識しており日本語を含む多言語対応も順次進めていくでしょう（実際、PatentSight+は既に日本語インターフェースやデータを備えています⁵⁵）。総じて、2025年末から2026年にかけてProtégéが本格普及期を迎えるにつれ、知財部門のみならず事業開発・研究開発・経営企画といった部門横断での活用が広がり、各社の**知財戦略の高度化と俊敏化**に寄与していくものと考えられます。

5. セキュリティやプライバシー対応、企業の懸念に対する説明

企業が生成AIツールを導入する際に懸念するポイントとして、**機密情報の扱い（データの漏洩リスク）やプライバシー遵守**、そして**AIによる誤判断・バイアス**などが挙げられます。Protégéに関してLNはこれらの懸念に対し、公式に以下のような対応策・姿勢を示しています。

まず**セキュリティ面**では、ProtégéはLNエコシステムの他のサービス同様に**エンタープライズグレードのセキュリティプロトコル**に則って運用されます⁶⁵。ユーザーがProtégéに入力したクエリ内容や利用履歴などのデータは、**外部のAIモデルの学習用途には一切利用されない**ことが明言されています⁶⁵。昨今問題視されている「クラウドAIに入力した社内情報がベンダー側のLLM再学習に使われてしまうリスク」について、LNは**社外モデルへのトレーニング利用禁止**を約束しており、企業秘密の漏洩リスクに配慮しています⁶⁵。またProtégéおよびPatentSight+は**ISO/IEC 27001認証**を取得しており、さらにGDPR（EU一般データ保護規則）やCCPA（カリフォルニア州消費者プライバシー法）といった主要なデータ保護法規制にも準拠しています

65。このように、国際基準に適合した情報セキュリティ・プライバシーフレームワークの下でサービスが提供されるため、企業利用に耐えうる**堅牢なデータ管理体制**が敷かれていると言えます。

次に**生成AI特有の課題**である**出力の信頼性**については、前述のとおりProtégéは回答ごとに裏付けとなる**データや検索式を開示**することで透明性を確保しています 4。ユーザーはAIの出力を鵜呑みにするのではなく、その根拠をPatentSight+上で追跡・検証できるため、意思決定の妥当性を自ら評価できます 4。これは企業がAIを活用する上で重要な「説明責任（Accountability）」に込める仕組みです。またLNはAIソリューション開発において**人間の監督（Human-in-the-loop）と公平性の確保**を重視しています 66。親会社RELXが策定した「責任あるAI原則」に則り、**現実世界への影響を考慮した上で不当なバイアスの排除に努めること**、各ユースケースに最適なモデルを選択する**マルチモデル戦略**によって迅速かつ柔軟にAIを改良できる体制を敷くことなどを公表しています 67。実際、LNは法律分野向けAIの開発でも豊富な実績を有し、リーガルテック領域で培ったノウハウを知財領域にも応用しているとしています 66。このような**倫理的・法的リスクへの配慮**は、多くの企業が生成AI導入時に懸念するポイントであり、Protégéも例外なくその点に最大限留意して開発・提供されていることが読み取れます。

さらに**内部統制やガバナンス支援**の観点では、LNはユーザー企業向けに適切なサポート情報も提供する構えです。AI Insiderプログラムの一環で限定ウェビナーを開催し、Protégéの活用方法や注意点をレクチャーしたり、社内研修用の動画やマニュアル類を整備しているようです 68 69。例えば、PatentSight+のサポートポータルには入門ガイドや方法論の解説記事が掲載されており、エンタープライズユーザーがAIアシスタントを正しく使いこなすための教材が提供されています 70。これらにより、利用企業内でのAIリテラシー向上や、出力結果の人間レビュー体制づくりなど、**AIと人間の協働による正確な知財分析**が促進されることが期待されます。

総じて、Protégéは最新技術である生成AIを搭載しつつも、「企業利用に耐える信頼性・安全性の確保」に細心の注意を払って設計・運用されています 65 37。データの機密保持や法令順守はもとより、出力の透明性確保や開発段階での人間の関与、ユーザー教育まで含めた包括的な対策が取られており、これが**大手ベンダーによるソリューションへの安心感**につながっていると言えるでしょう。もっとも、実際の運用が広がる中で潜在的な課題（例えば日本語特有のニュアンスへの対応や、想定外の質問への応答品質など）が顕在化する可能性もあります。そうした場合でも、LNはユーザーからのフィードバックを積極的に取り入れ改善を図るとしています 57 58。企業ユーザー側も社内ポリシーの整備や検証プロセスの組み込みを行いながら、**Protégéを自社の知財戦略に安全かつ最大限に活用していく**ことが求められるでしょう。

おわりに

LexisNexisの生成AIアシスタント「Protégé」は、特許分析の世界におけるゲームチェンジャーとして登場しました。自然言語で対話しながら高度な知財インサイトを引き出せるという利便性は、**知財データの利活用範囲を大きく広げ、迅速な意思決定を後押し**するものです。29 71 一方で、その信頼性や他社動向について慎重に見極める視線もあります。しかしLNは豊富な実績と堅牢なデータ基盤を背景に、責任あるAI開発ポリシーの下でProtégéを提供しており、競合にはない強みを発揮しています 25 32。今後、予定されている機能拡張や多言語対応が進めば、さらに幅広いユーザーがこのソリューションの恩恵を受けるでしょう。日本においても、知財を経営に活かす動きが加速する中でProtégéはタイムリーなツールであり、既に多くの企業がその可能性に注目しています。**「問いから戦略へ」の移行を加速**するこのAIアシスタントを上手く取り入れることが、知財部門のみならず企業全体の競争力強化につながると期待されます 3 4。今後の展開次第では、知財分析市場のスタンダードの一つとしてProtégéが定着し、知財業界に新たな価値創造をもたらすことになるでしょう。

参考文献・出典（※出典は本文中に【】付きで示した）：

【1】 LexisNexis Press Release – “LexisNexis Announces Protégé™ AI Assistant in PatentSight+™ to Accelerate Strategic IP Decision Making” (September 03, 2025) 1 72 24 7 63 64 66

【2】 LexisNexis IP Blog – “Highlights from the 2025 LexisNexis PatentSight+ Summit” 46 47 73 53

【3】 LegalTechTalk – “LexisNexis Announces Protégé™ AI Assistant in PatentSight+™...” (GlobeNewswire経由、2025年9月3日) 29 71

【4】 Artificial Lawyer – “LexisNexis Launches ‘Protégé In PatentSight+’” (Sept 3, 2025) 32 35 36

【6】 LexisNexis IP Product Page – “Protégé: Your AI Assistant for Strategic Decisions” 5 25 38 6 23

【7】 LexisNexis IP Product Page (Protégé FAQ) 8 9 11 13 15 17 19 20 22 65 37

【11】 Clarivate Blog – “Comparing DWPI abstracts to generative AI summaries: You asked, and we answered” (2024年9月10日) 42 44 43

【15】 レクシスネクシス・ジャパン プレスリリース – 「PatentSight+に新AIアシスタント『Protégé』搭載予定を発表」 (2025年9月3日) 2 3 4 62 54

【19】 PR Times記事 – 「PatentSight® 日本語版 サービス開始」ほか（関連情報） 55

【20】 Gemini Deep Research (Yorozu IP SC) – 「PatentSight+ AIアシスタントの詳細解説」（社外分析レポート, 2025年） 39

【21】 Gemini Deep Research – 同上 57 59 60 61 68 69

1 7 24 26 27 28 63 64 66 67 72 LexisNexis Announces Protégé™ AI Assistant in PatentSight+™ to Accelerate Strategic IP Decision Making | LexisNexis PressRoom
<https://www.lexisnexis.com/community/pressroom/b/news/posts/lexisnexis-announces-protege-ai-assistant-in-patentsight-to-accelerate-strategic-ip-decision-making>

2 3 4 54 62 レクシスネクシス、特許情報分析ソリューションPatentSight+に新AIアシスタント「Protégé (プロテジェ)」の搭載予定を発表 ～知財を経営戦略に生かす意思決定を加速～ | LexisNexis Intellectual Property Solutions
<https://www.lexisnexisip.jp/resources/lexisnexis-announces-protege-in-patentsight/>

5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 25 37 38 65 Protégé: Your AI Assistant for Strategic Decisions | LexisNexis Intellectual Property Solutions
<https://www.lexisnexisip.com/products/protege/>

29 30 71 LexisNexis Announces Protégé™ AI Assistant in PatentSight+™ to Accelerate Strategic IP Decision Making - LegalTechTalk
<https://www.legaltech-talk.com/lexisnexis-announces-protege-ai-assistant-in-patentsight-to-accelerate-strategic-ip-decision-making/>

31 32 33 34 35 36 LexisNexis Launches ‘Protégé In PatentSight+’ – Artificial Lawyer
<https://www.artificiallawyer.com/2025/09/03/lexisnexis-launches-protege-in-patentsight/>

39 40 41 57 58 59 60 61 68 69 70 yorozuipsc.com
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/da06a1d47eeb6e2beae0.pdf>

42 43 44 **DWPI Abstracts vs. Generative AI Summaries: Key Insights**

<https://clarivate.com/intellectual-property/blog/comparing-dwpi-abstracts-to-generative-ai-summaries-you-asked-and-we-answered/>

45 46 47 48 49 50 51 52 53 73 **Highlights from the 2025 LexisNexis PatentSight+ Summit**

<https://www.lexisnexisip.com/resources/lexisnexis-patentsight-summit-highlights/>

55 56 **PatentSight - LexisNexis Intellectual Property Solutions**

<https://www.lexisnexisip.jp/solutions/ip-analytics-and-intelligence/patentsight/>